

津波警報が変わります

東日本全域に大災害をもたらした東北地方太平洋沖地震。特に津波による被害は甚大でした。

この地震に対して当初発表した津波警報は、実際の

津波を大きく下回る等、津波警報の発表に関する課題が指摘されました。気象庁では、このような津波による被害の軽減を図るため、有識者や各防災関係機関と協力して、津波警報の改善に取り組んできました。そして、震災から約2年を迎える平成25年3月7日(予定)から、「新しい津波警報」の運用を開始します。

津波警報・注意報について

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報・津波警報・津波注意報を発表します。その後、「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

到達予想時刻・予想高さ		
大津波警報 (予想高さ)		
○○県	津波到達中と推測	巨大
××県	10時30分	巨大
:		
津波警報		
△△県	11時00分	高い
□□県	12時00分	高い

【巨大地震発生時のイメージ】

マグニチュード8を超える地震の場合、「巨大」という言葉を使った大津波警報で、非常事態であることを伝えます。

◆マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における最大級の津波を想定して、大津波警報や津波警報を発表します。これにより、津波の高さを小さく予想することを防ぎます。

◆このとき、最初の津波警報では、予想される津波の高さを「巨大」、「高い」という言葉で発表し、非常事態であることを伝えます。

	予想される津波の高さ	
	高さの区分	発表する値
大津波警報	10 m ~	10 m 超
	5 m ~ 10 m	10 m
	3 m ~ 5 m	5 m
津波警報	1 m ~ 3 m	3 m
津波注意報	20 cm ~ 1 m	1 m

正確な地震の規模が分かった場合、予想される津波の高さを1 m、3 m、5 m、10 m、10 m 超の5段階で発表します。

◆これまで8段階で発表していた予想される津波の高さについて、被害との関係や、予想される高さが大きいほど誤差が大きくなることを踏まえ、5段階に集約します。

◆津波警報等の発表時には、各区分の高い方の値を予想される津波の高さとして発表します。(例: 3 m から 5 m の間の津波が予想されたら「予想される津波の高さは5 m」と発表)



「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、ただちに高い場所に避難しましょう。

津波観測に関する情報

津波警報の発表後、沖合や沿岸の観測点で観測した津波の高さや到達時刻を発表します。高い津波が来る前は、津波の高さを「観測中」として発表します。

◆大津波警報や津波警報が発表されているときには、観測された津波の高さを見て、これが最大だと誤解しないように津波の高さを数値で表さずに「観測中」と発表する場合があります。



津波は何度も繰り返し襲ってきて、後から来る津波の方が高くなる場合があります。



!! 強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら、すぐに避難 !!
!! 揺れがなくても、津波警報を見聞きしたら、すぐに避難 !!

